



血漿 fetuin-A 濃度と 2 型糖尿病の危険率

KEYWORDS// 血漿 fetuin-A, 2 型糖尿病, 危険率

2 型糖尿病は肥満と共に主要な世界的、公衆衛生的脅威であり、寿命低下の重要な寄与因子である。肝分泌蛋白質の fetuin-A は動物においてインスリン抵抗性を誘導し、ヒトでは循環 fetuin-A はインスリン抵抗性や脂肪肝において上昇している。

著者らは血漿 fetuin-A 濃度が 2 型糖尿病の出現率を予測できるかどうかを研究した。実施した 27,548 人からなる case-cohort study において, subcohort として無作為に 2,500 人を選んだ。そのうちの 2,164 人は非糖尿病であり、解析のための既往や人体計測および代謝データが揃っていた。7 年の追跡期間に同定された糖尿病症例 849 人のうち、703 人が同様の除外後に解析対象として残った。

血漿 fetuin-A 濃度は年齢調整後に糖尿病危険率と正相関した。その関係は性, BMI, ウェスト, 生活習慣危険因子の調整後にも認められた。グルコース, 中性脂肪, コレステロール, HDL コレステロール, γ -グルタミルトランスフェラーゼ, CRP (C-reactive protein) などの調整やこれらマーカーの相互調整はこの結果を少しも変化させなかった。さらに fetuin-A は血漿グルコース高値の個人では特に糖尿病危険率の上昇と関係していた。血漿 fetuin-A は 2 型糖尿病の独立的危険因子と考えられた。

(Stefan N, Fritsche A, Weikert C, et al : Plasma fetuin-A levels and the risk of type 2 diabetes. Diabetes 57 : 2762-2767, 2008)

(埼玉県立大学保健医療福祉学部 鈴木優治)